

“統計の価値科学の世に生きる”

人間が月の世界に到達しようというように、現代は、いろいろな分野において、相像にも及ばないような高度化へ向つて進んでいく。このような社会、経済の激しい移り変りに対処するために現代人は、科学的、合理的なものごとの処理が要求される場所である。

行政施策の円滑な運営のためにも、企業合理化などの分野においても、確実な資料を基礎にして行なわれるようになってきている。統計は、その科学性、合理性から現代社会の要請に応え得る最も鋭利な武器として、これからますます精度の高い高度なものが必要となつていくようである。

“勤によるものごとの処理危ぶまれる”

日本人は、元来「数字」に弱いとされている。たしかに数学が得意であるという人は少ないようだ。そうすると自然に物事を考察するにあたって勘に頼る傾向が強くなり、現代の科学時代においても、勘による物事の処理を行つていくということが多く、客観的な資料に基いて合理的な考察をするのが不得手な国民であるといわれているような。

経験や勘も必要であるが、現代においては、統計的な考え方をを用いて、合理的、客観的な判断をするような生活態度が、必要であるとされている。

“指数いま社会の変転を語る”

指数とは、同種統計数字の比較を容易にするために計算される。「統計比例数」の一種であると統計辞典にいう。たしかに、実数を直接比較してみてもその数字の動きはなかなか実感として納得されないようである。指数は、ある時点の基準数値を100として、その前後の時点を105とか98とか表わし変化の相対的大きさをより明瞭に比較することができる。物価の変化をみる物価指数とか、生産の動きをみる鉱工業や農産物の生産指数その他いろいろな指数が作られており、この指数を図化することによって、ものの動きが一目で把握することができる。

“ランドセル横断歩道が危ないな”

さくらの花とともに、新学年がはじまる。幼稚園から大学まで希望に満ち溢れそれぞれの校門をくぐる。なかでも小学校の入学風景はほゞ笑ましい。自分にもこんな時代があつたのかなと思う。

何もかも新しいものづくめ、ランドセルがカタカタと希望の音を響かせて光っている。この可愛い子供達にとって現代の大敵は交通戦争である。自動車ラッシュの昨今、新入学児の交通事故も教多く報道されている。お互に交通ルールを守つて子供達が安心して通学出来るようにしたいものである。

“世相にはかかわりもなくさくら咲く”

毎日のニュースには、忌むしい悲しい事件があまりにも多い。国際的な大ものから街角の小っぼけなものまで現代社会の縮図が報道されているようだ。

ベトナムの悲劇、思想の対立、黒人騒動、物価、交通戦争、汚職に収賄、その他もろもろの事件が日常茶飯時のように。しかし自然は人間の行動にはかかわりなく、希望の春を持つてきて、今年もサクラが人々の目を楽しませてくれた。国花、さくらも近年は排気ガスなど、社会の発展に汚されその色もあせてきたとか。

“転勤の荷物に犬も猫もいる”

4月は、異動の月、新年度の発足とともに各方面で異動が行なわれる。一枚の辞令がサラリーマンの住居をかたつむりのように変えさせてしまう。

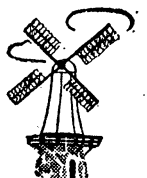
人の生活というものは、高度成長下生活水準が向上するにつれて耐久消費財などの家財道具が多くなるやら、縁に親しむ人の習性から庭木なども引越荷物に加えられ大変なようである。この引越の月、そちこちでいろいろな風景に出くわすことが多い。

“定年という人生駅がある”

人生行路は、長いようでも過ぎ去つた思い出は短かく淡いものであるとか。いろいろな職場に一生を捧げてくらしを守つてきたサラリーマンにも、定年制という関門がある。時は刻々と好むと好まざるに関わらず定年という職場の終末駅に運んでくれる。地方公務員にも定年制が法制化されそう、しかし実際には今までにも法制化されていながつたが、ある年令になると勧奨退職という内約があつたわけである。



⑧4



藍 綬 褒 章 に 輝 く

名 雪 定 一 さ ん

昭和43年の藍綬褒章伝達式が4月4日、総理府総務長官室で行なわれ、本県からは統計調査員の名雪定一氏（波崎町）が選ばれ、褒章の授与をうけた。

氏は明治29年3月生れ、大正12年早稲田大学専門部法律科卒業後行政書士として、人生のスタートにつき、戦後は、波崎町議会議員、部落区長、町内遺族会副会長などの重責をはたしながら、終始一貫、国勢調査員としても活躍されている。

× × ×

氏が統計調査の職についたのは、大正9年の第一回国勢調査員から、以後昭和40年の国勢調査に至るまで、毎回の国勢調査に従事してきた。

氏は、着実にして責任感強く、国勢調査が国の最も重要な統計であることの本旨を理解し、町当局にも連絡を密接にしなが、他調査員の指導的役割を果たしてきた。

また、その調査にあたっては、受持区域を精密に巡回し、調査地帯、人員のは握につとめ、懇切丁寧な記入指導を行なうなど、調査は完全なもので、他の模範として高く評価されている。

また、波崎町議会議員、公民館運営審議委員等の役職にも就き住民の生活向上、福祉の増進に尽した功績もき



わめて大きく昭和41年11月には、統計調査を通じて地方自治の向上に貢献した貢献により茨城県知事から茨城県功績賞をうけている。

× × ×

伝達式当日は、午前11時、子息博悦氏を同伴者に、総理府特別会議室に参集、長官室における伝達式を終了後、午後1時大手門から皇居参入、陛下からおことばを賜ったあと皇居内を拝観、乾門から皇居を退出した。

統 計 調 査 の 紹 介

就業構造基本調査

今年7月1日に、総理府統計局において構造基本調査が行なわれる。この調査は昭和31年に始めて実施され、今回で5回目当たる。この調査はわが国人口の就業実態、労働力の移動状況を全国別地区別に明らかにして、雇用施策、経済計画、地域開発計画などの施策の基礎資料を得るものである。わが国人口の就業実態について

は、労働力調査などにおいても調査されているが、今日の実態や労働力の調査は、これよりもっとくわしく不完全就業の実態や流動状況をも調べるものである。

また、この調査は、国民の就業者識についても調べられる。

調査は、全国から抽出された世帯およびその世帯に常住している15才以上のものについて多種類の調査票を用いて行なわれる。